



水戸ユネスコだより

2026年 (2026年3月15日 発行)

編集・発行：水戸ユネスコ協会 (Mito UNESCO Association)

事務局：〒310-0012 水戸市城東 4-5-4

ホームページ：<https://mtunesco.jp/> (右下にQRコードあり)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。



分断が進む世界での民間ユネスコの役割

水戸ユネスコ協会 会長 中庭 陽子

「私には国際法は必要ない、私の心が決める」と言い放ったアメリカ大統領の出現により、国際法に支えられた世界秩序が崩れようとしている緊張感の中で、「力による平和」の先に、どのような世界が待っているのだろうかと思う。「強者はしたいことをし、弱者はそれを耐え忍ぶ」。カナダのカーニー首相はダボス会議で古代ギリシャの歴史家の言葉を引用した。政治的・経済的に振り回される弱者であることを自覚させられる今日の世界情勢。だからこそ、ユネスコの理念が、一步一步、安心安全に暮らせる平和な社会の実現に向かっていく勇気と希望となるよう、民間ユネスコが頑張る時に思う。

プラネタリー塾の3年目が始まる。講座を通して、まずは皆さんの心に平和のとりでを築くことができたなら幸いに思う。第6回の「英語で茶道体験」では「和敬清寂」の茶の精神を伝えた。人が人間として敬意をもって扱われることが平和な社会であると思う。宇宙から見た地球は青く美しいプラネットだ。このプラネットで人々の涙や血が流れてはならない。Smile, Smile, Smile! Hold hands. Shake hands.

2025年度 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 埼玉

9月27日、深谷市民文化会館において、「次代につなげよう 平和の心―戦後80年、今できることは」をテーマに2025年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 埼玉が開催された。開会にあたり、佐藤美樹日本ユネスコ協会連盟会長より、地域に根ざした具体的実践を通じて学び合う場としたい旨の挨拶があり、続いて石澤邦彦埼玉県ユネスコ連絡協議会会長からは、節目の年における開催意義と平和の心を次世代へ継承する重要性が述べられた。基調講演では、前深谷市教育委員会教育長小柳光春氏が、渋沢栄一の理念はユネスコの理念やSDGsの推進と深く関わり、地域づくり、人づくりの指針となると話された。

講演に続き、深谷地方ユネスコ協会から「児童生徒による論語の素読 渋沢栄一ジュニアボランティアガイド」、太田ユネスコ協会から「諸外国交換ユネスコ児童・生徒作品展の開催」の事例発表があった。

今回の研究会は、分科会の設定は無かったが、ユネスコの理念に基づく地域と連携した教育活動・国際交流活動が着実に実践されている例が紹介され、私たちの今後のユネスコ活動にとって示唆に富むものであった。

(林 和男)



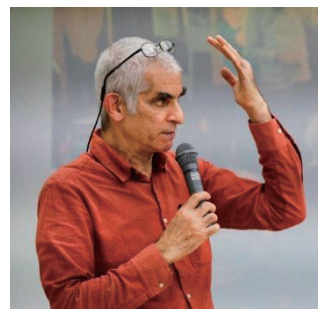
Mito UNESCO プラネタリー塾

<実施のねらい>

水戸ユネスコ協会は、次代を担う若い世代を主な対象として、「平和で持続可能な社会の構築」を自分事として考える「Mito UNESCO プラネタリー塾」を展開しています。今年度は、中高大学生・専門学校生が延べ84名、一般と会員を合わせると290名の参加を得ることができ、ユネスコ憲章の理念を伝え、現代社会の抱える課題解決をともに考える機会とすることができました。

第1回 国際平和 ―世界のいま 平和ってどんなこと 8月23日(土) 水戸市国際交流センター

元イスラエル空軍兵のダニー・ネフセタイ氏を講師として招き、国際情勢を踏まえながら平和を自分ごととして考える機会とした。対立が固定化していく背景には、相手を「敵」として分けてしまう差別や分断、命令への服従を前提とした構造、暴力の正当化、そして解決が武力に偏る危うさがあると述べ、軍事力は本質的に人を殺し物を破壊する機能に集約されるにもかかわらず、イメージによって「格好良さ」が先行しやすい点に注意を促した。また、残酷な暴力行為は決して容認できないとした上で、テロを含む暴力を武力で止めようとする発想には限界があり、憎しみの連鎖を断つには対話と外交によって犠牲を増やさない努力が不可欠であると問題提起した。さらに、「敵」という概念は本能ではなく教育や環境から生まれ、実際に出会い理解することで隣人として捉え直せることを自身の体験として語り、人権と尊厳に立ち返る重要性を強調した。当日は中学生を含む幅広い年代が参加し、国際情勢を単純な善悪で片付けず、対話を軸に平和を考える視点を得る有意義な学習機会となった。あきらめずに声をあげることこそ、自分たちにできる大切なことであることを学んだ。



◎ 第2回 環境学習会 -サステナブルファッションを通して考える 9月28日(日) 水戸市国際交流センター

サステナブルファッションの意味や、世界的な動向、日本の動向について説明があった。世界では生産者責任が問われているのに比べ、日本では個人の消費行動に焦点が当てられている違いがあった。リサイクルにより価値を高めるアップサイクルな取り組みとして、ファッションショーを捉えなおし、事例の紹介もあった。講師から、文化デザイナー学院のこれまでの歴史の中で、どのようにサステナブルファッションに取り組んできたか説明があった。文化デザイナー学院では、地元の企業と連携しフェアトレードやリメイク品の販売などに取り組んでいる。学生たちが企業と連携して活動することで、教育面での効果も大きかった。ファッションショーで何かをやりたいという気持ちや、人を楽しませる気持ち、連携することや実現させる行動力などを学ぶことができた。

◎ 第3回 英語で国際交流 ―国内外の楽器の歴史 講話と演奏体験 10月11日(土) 水城高校

4名の講師を迎え、国内外の楽器の歴史などについて英語で語り、演奏を聴き、体験することで音楽を通して異文化理解を深め、国際交流を図ることを目的とした。

『ふるさと』を全員が好きな楽器で演奏し、合奏及び合唱をした。

* アフリカンドラム(パーコフィ エイキンス) 竹シロフォン(林 和男) 筑前琵琶(打越 美和子) ピアノ(秋葉 桃子)



◎ 第4回 SDGs活動 ―地球にやさしいファッションショー― 11月8日(土) 水城高校

3部構成のファッションショーの1部では、映像による文化デザイナー学院の「セカンドフラワー（一度役目を終えた洋服を新しい形で花を咲かせる）」ファッションショーの様子や衣装制作の過程の紹介があり、その後、学生11名が自分でデザインしたりメイク・リサイクルの衣装を身に付け、会場の階段席の通路を降り、颯爽とステージに立った。第2部では水戸ユネスコ協会会員が着物をリメイクした衣装やガーナの民族衣装を紹介した。また、水城高校生5名が、祖母や母が着ていた服や中学校の制服などを活用したファッションを披露した。協力者のインドの方によるサリーの紹介があり、第3部では韓国民族衣装が紹介された。

講評では、文化デザイナー学院校長 荒井真次氏が出場者個別にその意図するところに説明を加えてくださり、「地球にやさしいファッション」に取り組んだ出場者の思いを会場全体で共有することができ、感動をともしたファッションショーとなった。



◎ 第5回 地域遺産保護 ―水戸一高校内の史跡ツアー― 11月24日(月) 水戸一高

中庭会長の挨拶の後、水戸ユネスコ協会作成の横須賀副会長が描かれた地域遺産絵葉書セットの贈呈式が行われました。副会長から描かれている絵の説明がありました。薬医門とは門の建築様式の呼び名で、本柱とその後ろにある柱で支えられた屋根の棟の位置を中心からずらす形式で、側面から見ると非対称になっています。」との内容に驚きました。第二部は御厩校長先生からの講話「地域の宝を守り、活かす」から始まりました。水戸一高の地理・歴史・自然・人物・未来について、パワーポイントで詳細に説明してくださりました。水戸一高がそれぞれの分野で豊かであることや生徒が環境保全学習や社会教育学習に取り組んでいる様子が頼もしく感じられました。その後、校内を案内する附属中学生が前に出て自己紹介を行いました。自分の得意分野を述べていたのが印象的でした。自分の学校に誇りを持って生き生きと活動する様子が目に浮かびました。校内には旧水戸中学や水戸一高で学んだ人の像や建物、例えば民間人パイロット第一号の武石浩玻像、野球殿堂入りしている飛田穂州像や石井連蔵像、妹島和世さんが設計した江山閣などがあり、参加者は生徒の説明に感銘を受けていました。



◎ 第6回 異文化理解 ―英語で茶道体験― 12月13日(土) 水城高校

英語で茶道体験を通して、日本文化の素晴らしさを体験することを目的とした。交代制でAグループは、もみじの美しい路地を通り茶室玄関に入る。そこから英語の世界、少し日本語も入る。扇子で礼をし入室。床の拝見し、扇子、花の説明、菓子「木枯らし」の頂き方を聞き、お手前が始まる。茶せんの音、ひしゃくで水を入れる音がひびく中、お茶が振る舞われる。お茶の飲み方の英語での説明も快く「和敬清寂」だった。Bグループは、教室で岡倉天心の「The Book of Tea(茶の本)」の紹介と、「How to drink Tea in Japanese Tea Ceremony」というテーマで英語で茶道文化の説明を行った。

岡倉天心は茨城県とも所縁が深く、彼の著作は海外において日本文化を知る上で重要な価値を持つとされており、日本人にとっても理解が必要な著作である。英語による茶道文化の紹介では、茶道の初心者や初めて茶会を体験する人が必要な茶道の基礎知識を説明するとともに、お茶の飲み方について実演をしながら手順を追って説明を行った。



「14th こみっとフェスティバル」に参加して

「14th こみっとフェスティバル」が2月21日(土)、22日(日)に、イオンモール水戸内原で開催されました。ステージ発表及び各ブースでの活動紹介等大盛況でした。本協会では22日に参加し、「地域遺産絵はがき」の販売と「ユネスコクイズ」を実施しました。「地域遺産絵はがき」は本協会が「未来へひきつぐ地域のたからもの」事業の一環として、7か所を選んで創作したものです。絵と文は建築家の横須賀満夫氏によるものです。販売による収益金は「災害子ども教育支援募金」に寄付させていただきました。また、ユネスコの理念を多くの人に知っていただくために実施した「ユネスコクイズ」は大好評でした。このイベントへの参加は多くのNPO法人や種々の支援活動団体との交流及び協働により今後の協会の活動の活性化につながると感じました。(高木 昌宏)



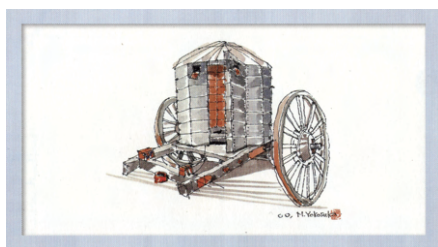
地域遺産絵はがき 未来へひきつぐ地域のたからもの。

水戸ユネスコ協会では地域の文化遺産保護活動をしております。この度、副会長の横須賀満夫氏と顧問の宇佐見恵子氏により、「地域遺産絵はがき」の第2版が制作され、水戸ユネスコ協会へ寄付していただきました。絵と文は横須賀満夫氏によるものです。

この絵はがきを通して、地域文化遺産を未来へ引き継ぐ活動の輪が広がることを願っています。水戸を訪れた方々への思い出とともに、お互いの文化を見直すきっかけにいただければ幸いです。



水戸気象台〔金町〕



安神車〔宮町 東照宮〕



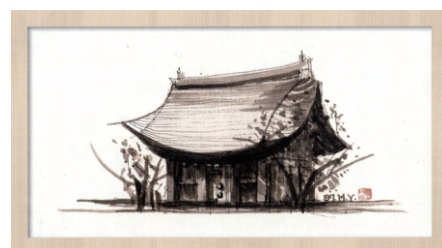
旧水海道小本館〔緑町 県立歴史館〕



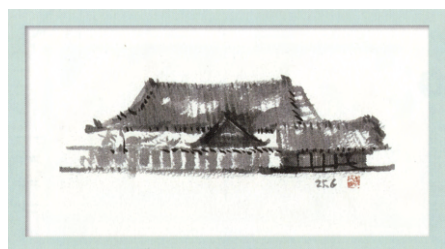
水戸商業高等学校旧本館玄関〔新荘〕



水戸市水道低区配水塔〔北見町〕



旧水戸城薬医門〔三の丸〕



水戸東武館（道場・正門堀）〔北見町〕

イラスト 横須賀満夫

横須賀満夫建築設計事務所 会長、一級建築士、
APEC アーキテクト。水戸ユネスコ協会副会長
販売価格 1セット 300円

収益金は（公社）日本ユネスコ協会連盟の「災害
子ども教育支援募金」に寄付させていただきます。